

第4回 第3次日野市立図書館基本計画策定委員会

日時……平成29年12月16日（土）10：00～

場所……中央図書館集会室

出席者…委員9名（山口 金子 戸崎 大矢 小形 石川 小林 田代 飯倉）、
事務局3名、オブザーバー（榑ぎょうせい2名）

欠席者 岡元

配布資料確認

- ・資料1：第3次日野市立図書館基本計画素案
- ・資料2：第3回策定委員会での計画への意見とその対応一覧
- ・資料3：素案に対して委員よりいただいたご意見とその対応一覧
- ・資料4：「日野市立図書館のあゆみとこれから」変更案

○事務局：資料1～4について説明。あわせて、計画の巻末に用語集を付す旨を発言。

1. 議題

（1）第3次日野市立図書館基本計画 素案について

【素案構成について】

- ・骨子案では、地域館に関する章が、施策に対する取り組みに関する章の前にある構成だったが、前回の委員会の中で違和感があるなどの意見があったため今回の素案では、地域館の章が後ろに記載される形としているが、これで良いか。⇒異議なし。

【素案修正内容について】

○「序章1 日野市立図書館のあゆみとこれから」について（資料4参照）

- ・この計画を読むのは一般市民なので、普通のありきたりなタイトルではなく、読者に「おやっ、なんだ？」と気を向けてもらうためのタイトルにしてはどうか。（資料3、意見1）⇒基本計画を手にとった段階で、計画内容に興味を持っていると考えるのが妥当。基本計画として一般的なタイトルで良いと思うので変更しない。
- ・前計画では、「あゆみ」だけを書いていた。今回の計画では「これから」を書いていきたい。これからどうしていくのかという部分がわかるように。
- ・15行目「～重要性が認識される契機ともなりました」の後に「データ集を参考に」の一文を入れてはどうか。当時は資料費などの情報が大きなウェイトを占めていた背景もある。さらにそれと同時に登録者の数も見ていただき凄かったのだなと感じてもらう流れにもなると思う。
- ・「これから」を書いていきたいという意見があったので、ここの文章の中に、「直営を進める」などの文章があればいいと思う。そこまで書けるかはわからないが。
- ・12行目「また当時は、児童へのサービスを行う図書館も少なく～」から、次の文章の「しかし、移動図書館ひまわり号に積み込まれた本や資料の半数は児童書」への繋がりが見えない。「児童向けサービスがあまり行われていない状況の中で、日野市としては児童書の重要性を鑑み、児

童向けのサービスを行った」という内容がある方がスムーズ。なぜ半数を児童書にしたのかという背景が見えない、先進的に児童へのサービスの重要性をみていたという部分を入れて欲しい。⇒ひまわり号で市内をまわって帰ってくると、児童書がほとんど無くなっているということもあり、児童書を増やしていったという背景を掲載していく。

- ・ 11 行目「市民の暮らしの中に図書館は必要とされるようになりました」は「必要」というよりは「浸透」「定着」の方が良いと思うので検討していただきたい。⇒「浸透」という言葉は良いので使わせていただく。
- ・ 16 行目「市民の要望を受け～」の部分の、「動かない図書館」の「動かない」というワードがネガティブ。地域に根差したなどの言葉はどうか。⇒市民や子どもたちからの要望として「動かない図書館が欲しい」「いつでも使える図書館が欲しい」という利用者の声が強く、それを使った単語である。市民の声があるという部分も考え、かつこ書きで残す。
- ・ 児童だけでなく主婦や女性の方の利用に関しても記載して欲しい。これまで焦点を当てられていなかった主婦や児童、主に地域にいる方へのサービスを進めてきたという部分を、余裕があれば書いてほしい。
- ・ 23 行目「日野市立図書館」の前で改行するのが正しいのではないか。

○「序章 2 計画策定の背景」について

- ・「意識・価値観の変化」の部分でなぜ防災のみが扱われているのか。（資料 3、意見 3）⇒震災以降、人々の絆や地域が大切だという意識に変化したという「意識の変化」に関する内容であって、防災だけが取り上げられているということではない。
- ・ I C T に関する変化も人口減少社会・超高齢社会も意識の変化に関わる部分だと思う。他の場所と重なる部分があるとは思いますが、「意識・価値観の変化」には I C T の部分も少し入れていく形で検討して欲しい。
- ・「人口減少社会・超高齢社会」「意識・価値観の変化」は事実を述べただけになっている。日野市に関してはどうなのか、それに対して図書館はどう動くのかの部分があった方がいいのではないか。⇒社会の中でこのような変化があるから、地域が大事であるという考えを持つに至ったという部分に繋げてもらえればと思う。ここでは背景のみを記載し、第 3 章以降で記載する地域の部分に繋がると考えてもらいたい。
- ・「人口減少社会・超高齢社会」「意識・価値観の変化」の各項目が、高齢者や児童へのサービスの部分につながっていくのだと思う。「超高齢化が進んでいく中で、図書館としてはこのような対応が求められている」のような文言で文章の調整をしてもらえればと思う。
- ・「意識・価値観の変化」の部分で、何の意識や価値観の変化なのかがわかりにくい。何の変化なのかをタイトルにつけて欲しい。しかし、このような意識や価値観といった内容に主語を付けることに関しては、主語を国民にするのか市民にするのかが難しい部分でもある。
- ・「意識・価値観の変化」→「情報通信技術（I C T）社会の進展」→「生涯学習社会の実現に向けて」の流れに変えてはどうか。
- ・「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の中の「知識基盤社会」という単語がなじまない。（資料 3、意見 5）⇒行政や生涯学習に関わる方々の間ではよく聞く単語ではある。この文章は誰に読んでもらうのかという部分もあるが、「知識基盤社会」は大事なキーワードであると思う。

- ・「知識基盤社会」という言葉が市民にはなじまないのもわかるが、このような単語を文章に入れると同時に、用語集でしっかりと説明することも大事なのではないか。
- ・「協働によるまちづくりの進展」対応案の2行目「画一的な行政の公的なサービス～」の部分の「公的」は必要ないと思う。(資料3、意見4)
- ・「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」対応案の文章の6行目「図書館の設置目的～」の部分は「図書館の本来の設置目的～」の方がわかりやすいと思う。(資料3、意見5)
- ・「図書館に関する行財政改革の動き」の部分は運営方式にかかわる部分で、トップランナー方式の説明や委託などに関して慎重に考えていくべきではないか、という内容も含まれている部分ではないかとも思う。「除外」とは書いてあるが「見送った」という感が強い。中央省庁がどう考えているかなどの流れも含めて、デリケートな書き方が必要。
- ・リニューアルプランに関する基本理念の「扉をひらく」に関する文章は資料記載の内容への修正で良いか。(資料3、意見7)⇒異議なし。

○「第2章 日野市立図書館の現状と課題」について

- ・来館者数と利用者の違いがわからない方もいるとは思うのでそこはしっかりと違いを明記すべき。
- ・市立図書館概要の表の「※～末実績」の部分の「末」はなくていい。
- ・市立図書館概要の表に人口の数値を入れるべき。

○「第3章 基本理念と基本方針」について

- ・「文化を創る拠点」の「文化を創る」が大それている。(資料3、意見11)
- ・積極的に創っていくと言って良いと思う。「地方共生」が一般的なワードになっているので、突飛な文言ではないと思う。これからのウェイトを置くという意見もあったので、発展的で良いと思う。図書館だけが創るわけではなく、市民と協働して創っていく部分でもあるので良いと思う。⇒「文化を創る」とする。
- ・スローガンの代替案の「だれもが自由に本や資料を利用し、様々な本と出あえる場として“本と人”をつなぎます。」は単に「出あう場」ではだめなのか。図書館だから「利用」がないといけないのか。(資料3、意見9・10)⇒「出あう」の先で「利用・活用」をすることが大事であるので、「利用・活用」は必要。「活用」の方が前向きな感じがして良いので「活用」に変更。

○「第4章 計画の内容（施策の方向性と取り組み項目）について

- ・サブタイトルの「～について」は「取り組み」で切ってすっきりとして欲しい。
- ・「市政図書室の機能充実」に関する対応案の3行目「進めますが～」の「が」の言葉が留保しているようで消極的な感じがする。(資料3、意見12)⇒「進めており、より網羅的～」に変更。
- ・「様々なライフスタイルにより、図書館を利用しにくい人へのサービス」の文言がわかりにくい。(資料3、意見13)
- ・「図書館の利用に障害がある方へのサービス」と「様々なライフスタイルにより、図書館を利用しにくい人へのサービス」の違いがよくわからない。そこに対応した取り組み一覧表の部分もわかりにくい。

- ・「ライフスタイル」は選択するものであって、肯定的な意味を持つ言葉。ライフスタイルを選択することで逆に使いにくくなるというネガティブな部分に繋がるのは変。社会的配慮に関する部分を書きたいのなら、ライフスタイルという言葉は違うと思う。
- ・「図書館の利用に障害がある方へのサービス」を最初にして、詳しい説明として「高齢者へのサービス」「外国人へのサービス」「図書館を利用しにくい人へのサービス」を持ってくるのはどうか。ライフスタイルという言葉は使わない方向で。⇒順番を変える。
- ・「図書館の利用に障害がある方へのサービス」の部分で大事なものは、従来の利用者層から多様化した部分に対応したということ。多様化をキーワードとするべき。⇒「様々な環境や要因」とする。
- ・取り組み一覧表は必要か。(資料3、意見14) ⇒今の基本計画にはほとんどこういった表が記載されている。文章でみるよりも、パッと見やすい部分もあるので、良いと思う。進行管理の基本にもなり、タイムラインを引いているというアピールにもなる。
- ・各項目に関して5年後にどうなっていればいいのかの部分がない。先の目標があるのかなどもあればわかりやすいと思う。⇒予算の確定もできていないまま、先の部分はかけない。今後はシートを作成し、今年度の実施状況や来年度の取り組み内容・目標を毎年公表していく形にしたい。
- ・取り組み一覧表の「継続」と「実施」の違いがわかりにくいので説明を明記するべき。
- ・一覧表と各取り組み内容の整合性が必要。⇒一覧表に項目内容の該当ページを示す。
- ・「地域の文化を創る拠点となる図書館をめざします」の部分に関して、「パスファインダー」という言葉がわからない方も多いのではないかな。⇒用語集でしっかりと説明します。
- ・「企業・事業所等との連携」とあるが、「事業所」の具体的な定義がなにかわからない。「事業所」という言葉はわかりにくい。福祉施設のイメージが強い。「商店」などの言葉の方がいいかと思う。
- ・2市民が気軽に立ち寄ることができる交流や憩いの場となります(3) 移動図書館ひまわり号の活用の部分の「移動図書館ひまわり号によるつながりを創る取り組み」の「つながり」は「」を付ないと文章の流れとしてみてもから読みにくい。
- ・広報ひのは固有名詞なので「」をつけるべき。
- ・3市民の読書活動を推進します(1) 本と出あうきっかけづくりの拡充の部分で、ポップ・ポスターを職業体験で作成する取り組みなどは様々な図書館で実施されている。図書館へもっと市民にかかわってもらえるような取り組みをしていくべきだと思う。⇒日野市でも実施しているので、取り入れていきたいと思う。どこに入れるかは検討する。
- ・リサイクル図書についての今の書き方では、本来のサービス内容のイメージがわからない。
- ・高齢者施設にリサイクル図書を渡すだけでなく、図書館内でリサイクル図書を配布していることは記載しないのか。⇒(2) 資料・情報の保存「図書の保存、除籍」の部分にリサイクル図書について載せる。
- ・「システム改良の検討」の部分で、システム改良の言葉がわかりにくい。⇒移動図書館ひまわり号への「オンラインシステムの導入」を説明したい部分なので、その内容を明記する。⇒その内容なら、「新しいシステムの導入」で良いのでは。

○「第5章の地域の特性を活かした各館の取り組み」について

- ・分館＝地域館なのか。言葉をどう使うのか整理をしないとわかりにくい。

【その他の意見】

- ・この計画は誰に読んでもらうものなのか、提出先はどこなのか。⇒行政に提出することはもちろん、図書館で利用者の皆様に読んでいただき、さらにHPに公開して市民の方に読んでもらいたいと思っている。
- ・今現在は、ほとんどの館で入館者数はカウントしていないが、図書館利用者の中でも本を借りない方もいる。その方たちも視野に入れたサービスを考えていく中でも、入館者数の計測は必要だとは思う。
- ・入館者数を計測するための技術や方法が難しい部分であるが、平山図書館ではどのように入館者数をカウントしているのか。⇒図書館の出入口に人数をカウントするための機械がある。しかし職員等の移動で通るときの数も含まれてしまっているのも事実としてある。図書館の本や資料の無断持ち出しを防ぐためのブックディテクションシステムと連動する方法もあるが、機械の導入には数百万円かかる。
- ・自分も、新聞などを読むだけで出ていくときもある。ひろばとしての図書館をめざすのならば来館者の数は大事であるし、その数を使って予算申請もしやすいのではないかな。⇒登録者数は1年間で図書を1回でも借りられた方の数であり、カードを持っている方の数ではない。今現在登録者数は、市人口の約2割となっているが、実際は図書を借りず、新聞だけを利用する方や資料をコピーして帰られる方もいらっしゃるので、入館者数を明らかにすることが大切という思いもある。しかし、来館者数の計測器をカウンターにつけてしまうと何度も出入りすることで、数値を操作できてしまう部分もあり、複合施設の場合は、どこに計測器を付けるのかの問題もある。トイレや寝るために利用するのもいいが、本来の図書館の目的である資料提供を差し置いて、それ以外の利用目的の数である入館者数が多いから良い図書館だという考えに繋がることがよくない。
- ・3「地域特性を活かした地域館の取り組みの充実～重点施策～」に関して、日野市では、これまでそれぞれの図書館を分館と言ってきたが、地域館という呼び方に変え、地域とのかかわりを意識するための変更だということである。
- ・日野図書館ではおはなし会をやっていないことを先日初めて知った。今どきの児童コーナーを持つ図書館ではおはなし会をやっていないのは珍しい。他の図書館ではおはなし会をしていないところはあるのか。⇒おはなし会をやっていないのは、日野図書館だけ。P28で最後の方に「おはなし会スペースを設置する等児童室の拡充を図ります」とあるが、現実問題、拡充は難しい。日野図書館では特別なスペースや部屋が無くてもおはなし会をしたらいいのではないかと考えている。
- ・図書館サービスの基本について書かれているが、基本中の基本であるおはなし会がされていないのが驚きだった。今一度基本サービスに関して、レファレンスも含めて総点検をしてもいいのではないと思う。
- ・施設入所の方や病院の方々に対するサービスも将来的に視野に入れておくといい。
- ・(4) 地域で活動する団体との連携の中の「企業・事業所等との連携」で、具体的な連携団体は決まっているのか。⇒先日開催したTOYODA BEERと連携したイベントでも、100名近くの方に参加していただき、ビールが足りないということもあった。いまは具体的にここと連携すると

いうものはないが、今後も図書館が、何ができるかを模索していきたい。

- ・商工会議所との連携をして図書館サービスをしている自治体もある。日野でそういった取り組みはないのか。⇒商工会議所との連携としてまちゼミへの協力をしている。「税理士事務所による領収書の使い方講座」や「ダンス教室」などのお店が実施する講座に合わせて、関連した図書館の本の紹介などの図書館のアピールを含めたチラシの作成・配布を行っている。
- ・PDCAもしっかり行ってもらいたい。⇒毎年図書館協議会にて、運営評価として、図書館で取り組んでいく項目について意見をいただき、内容をHPで公表するというを行っている。
- ・「学校図書館との連携」で学校への貸出資料リストの提供等とあるが、貸出リストとはどんなものか。それが連携とどう繋がるのかを教えて欲しい。⇒小中学校からこのような内容の学習をするので本を貸して欲しいという要望を受け、学校への資料貸出を行っている。どんな本を貸出したのかをリストにして提供し、学校で購入する本の参考にしてもらい、どの本が役に立ったのかを教えてもらうことで図書館も参考にするという連携を考えている。
- ・本の森での貸出リストは連携しているのか。⇒本の森のリストは返却用のリストの意味合いが強い。新しく出版された本のリストとしても活用していただいている。
- ・4すべての市民に図書館サービスを提供しますの（2）利用につながる図書館情報の発信の中の「未利用者向けチラシの作成・配布」とあるが、こういった取り組みは可能なものなのか。⇒今現在、日野市への転入者に作成・配布している。乳幼児健診の際も配布している。
- ・（4）多様な利用者へのサービスの拡充の「高齢者へのサービス」の部分で、リサイクル図書の配布が何なのかかわからない。⇒図書館で除籍した本を市民の方に配布し、再活用していただいている。高齢者施設に配布したこともある。
- ・リサイクル図書は幼稚園に先に持って行って、取ってもらうようなことはしないのか。⇒実施している。優先的に公的施設に持って行っている。
- ・（2）利用につながる図書館情報の発信の部分で「プレスリリース」とあるがどんなことをしているのか教えて欲しい。図書館の情報はあまり記事になっていない感じが強いが。⇒プレスリリースしてほしいという情報を広報担当を通じてプレスにお願いしている。目にとまったら取材に来られるという流れ。
- ・市の広報の方の意識を変えるべき。日野市といえば図書館なのだから、「広報ひの」にも毎回図書館のコーナーを設けてもいいくらいだと思う。
- ・中央図書館のリニューアルが実施されるということだが、次に他の図書館を建て替えるとなると何年後くらいに実施可能となるのか。⇒中央図書館に関してもリニューアルプランができただけで、設計もこれからである。予算が取れるかどうかともわからないので実施がいつになるかは未定。
- ・高幡図書館は狭いので、スペースの問題がある。その部分も今後リニューアルできたらと思う。

【「図書館の運営方法」「民間活力」「指定管理者制度」「委託」について各委員からの意見】

- 委員：指定管理者制度に関しては、他府県での失敗例もあるので、慎重に検討するべきだと思う。
- 委員：全国図書館大会において、多くの図書館関係者の方から「日野市だけは指定管理者制度をやめてくださいね」という意見をもらった。日野市が指定管理者制度を進めるとなれば全国的に大騒ぎになることが考えられる。公共図書館のエースとして、注目さ

れていることを考えるべき。

- 委員：民間に任せられる業務があれば任せても良いと思う。バスの運転など任せられるところは任せてもいいと思う。
- 委員：文化を創る拠点にしようとしている場所を、よそに任せるのは、考えられない。魂を売るようなものだ。
- 委員：無料で使えることが大原則で、貧富の差なく利用できるのが図書館。指定管理者制度は危ういやり方であると感じる。
- 委員：これまで繋いできた思いを繋げていくことや伝えていくことが、他の方を入れることでできなくなることは大きな痛手。
- 委員長：民間活力は市民の力もあると思う。そういう部分は取り入れていくことはとても良いことだと思う。市が直営で運営していくことの有意性をしっかりと示せるかどうかを問われている。今回の計画でその部分の答えも示していけるように。よい運営方法は何か、流行に乗るのではなく、本当に必要なものを考えていくことが大事。

（２）策定委員として基本計画策定に関わっての気持ち等を記載することについて

- 事務局：計画の中の委員名簿の部分に、各委員の意見を入れていただく方向で考えている。次回策定委員までに文章を 100 文字以内で作成していただければと思っている。

（３）今後の日程

- 事務局：１月５日（金）から１月２６日（金）にパブリックコメントを実施。次回策定委員会は２月３日（土）１０時～。パブリックコメントの内容は事前にお示しする予定。

以上